時事新報

驛遞局認可

明治十八年四月三十日
（西暦一千八百八十五年）
第九百五十六號
木曜日
日曜日休刊

賞勳敍任

○明治十八年四月廿三日
布哇國皇帝陛下ノ代理公使兼總領事
敍勳三等贈與旭日中綬章
ロベルト ウチルカー アルウキン

○明治十八年四月廿八日
任金鑽神社宮司　堀越彌三郎
任建部神社宮司　大神正盈
任多賀神社宮司　宇津木久岑
兼任箕山神社宮司　紀俊尚
任伊太祁曾神社宮司　日向國懸神宮宮司　從五位男爵　多村知興
任熊野坐神社宮司　熊野坐神社宮司　濱田男麻呂
任大國魂神社宮司　猿渡盛愛
任大洗磯前酒列磯前神社宮司　田口秀實
任美保神社宮司　大橋安敦
任眞清田神社宮司　大伴千秋
任靈山神社宮司　北畠通城
任生田神社宮司　西尾篤
任新田神社宮司　本田穣積
任熱田神宮神官

東京圖書館

時事報報

英露開戰セバ如何

露國國南ノ志近來再燃ノ勢ヲ現ハシ昨年中央亞細亞ノ蠶食ヲ試ミタル一府ヲ占領シテ漸ク英領印度ノ背ヲ窺ハントスルノ模樣アルヨリ英國モ窃カニソノ後圖ヲ按ヲ沿自カラ平ナル能ハズ露國ニ向テ阿富汗境界ノ問題ヲ申出シ一時ハ双方境界調査委員ヲ撰ンデ往々談判照會スル所アリシガ中央亞細亞ニ於ケル英露ノ利害ハ正シク相反對スルガ爲メニヤ事容易ニ落着セズ、歐洲ヨリノ最近電報ニ據レバ英露兩國平和談判ノ望ミナク既ニ最後ノ掛合ヲ爲シ軍備モ最早整頓シ了レリ云々トアリ又我輩ノ傳聞スル所ニ據ルニ今度阿富汗ノ關係ハ事態極メテ大ナルガ爲メ兼テ平和一偏ノぐらッぜすとん内閣モ全國公論ノ指示スル所ニ由リテ既ニ充分ナル決心ヲ爲シ戰氣、色ニ顯ハレタルヨリ英國公債證書ノ價ハ頓ニ非常ノ下落ヲ示シ四月三四日頃ニハ九十八磅以上ナリシ公債證書モ同月十一二日ノ頃ニハ前五年間ニ類例モナキ九十五磅ノ低價ニマデ下リタリト云フ又露國ノ方ヲ顧ミルニ近來戰爭ノ準備トシテ我輩ノ耳聞ニ達スルノ事項少ナカラズ即チ客歲十二月ノ事トカ蒲攪斯德港ノ我日本商店ヨリ同港屯駐ノ露國兵營ニ小麥粉若干斤ヲ賣込ミ受取渡シヲ爲スニ當リテ當時露國兵營ニテハ其小麥粉ニ水分多シトノ苦情ニテ其品ヲ引取ルヿヲ拒ミシガ近頃ニ至リ同兵營ヨリ俄ニ右商店ニ沙汰シテ曩キニ拒ミシ水分多量ノ小麥粉ヲ一議ニ及ハズ其儘引取リタリト云フ又我外務卿ハ去ル二十八日外務省第三號ヲ以テ本年五月二日ヨリ迄テ告示候迄露西亞領あもこりど（蒲攪斯德港ノ近傍）燈臺ニ點火中止致シ候旨露國海軍少將ふるりどがらせん氏ヨリ通達アリタル趣本邦駐劄露國特命全權公使ぱらるせふ閣下ニハ四月二十五日ヲ以テ貴政府ニ通知アリタリト告示シタリ蓋シ露國少將ガ今日ニ當テわすこりど燈臺ノ點火中止ヲ通達シタルハ云ヘリ先キ露國ガ水雷火ヲ蒲攪斯德港口ニ埋置シタルト謂ヘバ我輩ノ一端ナリトスレバ英露兩國ノ戰火ハ今將ニ眉端ニ及バントスルノ勢アリト云ハザルヲ得ズ尤モ今日ノ國交際ハ所謂喜葉之臭ク、居合腐ノ流儀ニテ厭間ノ三尺ハ今ニモ引抜クバカリニ見セ掛ケテモ交際上ノ應答ハ自カラ婉曲ナル所アルガ故ニ今後或ハ英露戰熱ノ頓ニ減ズルヿナシトモ云フ可ラザレドモ萬一兩國平和ヲ得ズ英露驚騭海陸ニ喧嘩睥睨スルヿトモ爲ラバ我國ハ如何ナル影響ヲ受ク可キヤト云フコ

先ヅ第一ニ影響ヲ受クルモノハ我外國貿易ナラント思ハル、元來我輸出品中ノ第一等タル生糸類ハ歐米兩洲ニ輸出スルトハ云フモノ、米國ニ輸出スルモノハ佛國ニ輸出スルモノニ比スレバ僅ニ三分ノ一ニモ過ギズ即チ我生糸類ノ貿易ハ歐洲ノ貿レ道ヲ以テ重シトスレドモ英露兵結ンデ歐洲ノ人心恟々タリトアレバ其實レ道モ勢梗塞セザルヲ得ズ故ニ英露ノ關係ハ最初ニ我外國貿易上ニ影響スルヿ事ノ自然ナリト申ス可キナリ又兩國ニテ開戰ヲ布告スレバ我國ニテモ蓋シ亦局外中立ヲ布告スルヿナラン既ニ中立ヲ布告スレバ隨テ中立國タルノ權利ヲ施シ又義務ヲ盡サヾル可ラズ此際交戰國ノ軍艦ガ我國ニ向テ必需品ノ賣リ渡シヲ要求スルヿモアラン或ハくりみや戰爭ノ折ノ如ク軍艦ノ我港内ニ逃ゲ入ル等ノ事ナシトモ云フ可ラズ然ルニ英國ト云ヒ露國ト云ヒ其ニ歐洲ノ強大國ニシテ其關係ハ佛清ノ關係ナドヽ同一視スルヿヲ得ズ我國ノ所爲如何ニ由テ彼レノ怨恨ヲ招クヤウノヿアリダラバ後患測リ難キガ故ニ此際ニ處スルヿ決シテ易々タラザル可シト思ハル、孰レ両國事急ナレバ我政府ニ於テモ沿海ノ戒嚴等ニ注意シ中立國ノ分ヲ守ルノ用意アルヿナラント雖ドモ我政治商賣等ニ從事關心スル人々ハ晴ヲ轉セズシテ英露今後ノ動靜ニ注目セザル可ラズト信ズルナリ

雜報

○海軍參謀官　今度海軍省にも參謀官を設くる由噂の儀前號の本紙上に掲載せしが愈々參謀官を設けたらんは參謀長い樣山中將が任するとあるべしといふ

○日本在留の清官　目下日本の各地ゑ駐在する清國使臣の姓名は左の如し

欽差大臣徐承祖　參贊陳明遠、楊樞　隨員沁林、姚夕桃、駐土瑤、陳衍範、謝傳烈、陳家麒、梁龍泰　醫官葛能存　試辦黃國春（以上東京駐在）○理事阮祖榮　繙譯沈鐸　隨員劉坤陳　荒泉（以上横濱駐在）○理事徐承禮　繙譯徐廣坤　隨員解坤元、于德（以上神戸駐在）○理事蔡軒　繙譯鍾進成　隨員梁偉年（以上長崎駐在）

○駐米清國公使　北米合衆國、ブラツル　秘魯三國出使清國大臣鄭藻如は昨年滿期の處更に一年の再任を命せられたりしに同氏い近頃半身不隨の病に罹りたるゑ付辭職と請ひ參贊官（書記官）蔡護なる人か公使の事務と代理をることなりたる由

○米國新内閣員の傳（前號の續）

○大藏卿　マンニング氏（Manning）ダニエル　マンニング氏は十一歲にして紐育州アルバニー府のアトラス新聞（後にアルガス新聞と改稱す）に入て小使となり夫より順次に經昇りて遂に右新聞の持主となるに至れり氏は千八百三十一年八月を以てアルバニー府ゑ生れ其先は愛蘭人、英人、荷蘭人より出てたり氏い幼時家貧にして學校ゑ入る能はず早くより新聞社に入り去が天性學問を好ミ仕事の少間を偷んで常に書を讀む事を勉め又凡そ如何なる仕事にても人より授けらるゝ時は怠らず之を務めたりしかば其昇進頗る早かりし氏は新聞社にて一時い印刷局長となり次ゑ新聞用紙取扱事務を擔任し其后更に探訪者となり立法院の事に關しては其報道大ゑ精確なりとの評判を得たり探訪の役を務め居たりし際氏い廣く世人と交際を結び是ゑ依りて政治上の智識を得し事尠なからず隨て氏をして政治上ゑ心を傾くるゑ至らしめたり

マンニング氏ゑ少壯の時ゑ在りて政治上の事を見覺へたるい重ゑ彼の數年間アルガス新聞の編輯長たりしウヰリアム　カッシヂー氏と其業務を共にせし時に在り千八百六十五年氏はカッシヂー氏と助けて編輯の事務を擔任し千八百七十三年カッシヂー氏死去して後は同新聞の事務は全くマンニング氏の支配する所となれりツウヰードリング黨との抗爭始まりしとき（ツウヰードリング黨ハ民主黨ノ別名ナリ）マンニング氏いサミウール　ヂエー　チルデン氏、チヤールス　オーコノル氏其他リング黨ゑ反對なる人々と意見を同ふし又チルデン氏（デモクラチックスチートコンヴェンション）より厚く信用を受け千八百七十四年共和黨州會の時ゑ其内ゑ在りて崩然頭角を顯はせり此時チルデン氏は右集會の長に撰ばれしがマンニング氏の擔當せるアルガス新聞はチルデン氏の呈出する修正說とあれば一切萬事之を贊成し口を極めて稱揚したり、マンニング氏は千八百七十六年以來共和黨州會の委員となり千八百七十九年と八十年は同年ゑ其書記を務め八十一年、八十二年、八十三年の三年間ゑ常ゑ其議長たり、千八百七十六年及千八百八十年の各共和黨會議の時にはマンニング氏は紐育州ゑ委員に擧ゑられ昨年の同會ゑも亦委員に擧げられ都合三度已の意に從て大統領選擧の投票を爲したりマンニング氏が共和黨の領袖と仰がるゝ原因い一ゑして是ゑすと雖も氏が是迄遠に自己の爲めゑ職役を求めざりしの一事も其一因ゑりと云ふ

マンニング氏が名望を博したるゑ獨り政治家としてのみゑらず理財家幷ゑ實業家として其名を顯はしたるに因れり千八百七十三年氏はアルバニーの國立商業銀行ゑ支配人とゑり同八十一年副頭取に擧げられ其翌年將軍ローベルト　エーチ　アルイン氏の死去せしゑ付其後を承けて頭取となりゑり又アルバニー及びサスケハンナ鉄道會社の社員となり數年間アルバニーの支配人たり氏は又アルバニー公園地の委員を務め又アルバニー電氣盤會社の支配人となり兼ねて　フチルト　オーレンゑ會の幹事たり

マンニング氏は千八百五十三年メリー　ラウツルと首へる婦人と娶り四子を擧げ其内ウエームス　ヒルトン

マンニング氏ゑ唯一人ゑりしが其后千八百六十一年ソコンゲ氏と再婚し其后ゑ一男を擧げたり氏い前年ゑ於て亡ずアル女ゑ一人ゑりしが其后ゑ一男を擧げたり

○公債利子　府廳公債利子百五十一萬九千九百九十九圓又百五十一萬九千九百九十九圓ゑなりと云ふ

○理學學部講義　太郎（石崎）ゑ決議せしゑ付其後ゑ和歌山ゑ於て昨年十一月